

知 事 みなさん、おはようございます。

台風4号で予定が延びまして、本日になりました。ここで開くことにしましたのは、本日、ビーンズドームで日本デザイン会議が開かれ、併せて三木市のボランティアフェスタが開催されているからです。皆さんのホームグラウンドではないですから窮屈な思いをさせているかもしれませんが、気楽な楽しい座談会になったらと思っています。

さわやかトークは、県内各地で活動を展開されているグループをお尋ねして、このような意見交換会をさせていただいております。幾つかのねらいがあるんですが、一つは、私自身が勉強させてもらおうというのがありますし、併せてこのような活動を激励したい。もう一つは、みなさんの活動ぶりを承知させていただいた上で、他のグループにも紹介する機会を作っていきたい。みなさんの活動ぶりを県民のみなさんに紹介したいと思っています。3つ目は、そういう紹介を通じて、同じような活動を展開されている方と連携したいという人が出てきて、もっと広がりを持つという意味で、ネットワークづくりが出来ればと思っています。目的は一番初めに申し上げました、激励と私自身の勉強なのですが、そんなことも含めながらお訪ねをさせていただいております。

こういう自然を相手にした活動は、県内各地で展開されておりますが、その地域でなくては見つけられない、その地域だけの生物というのはたくさんいるはずで、そういう特色とか個性を交換し合える仲間が、例えば丹波や但馬、西播磨にいれば楽しいと思います。みなさんの活動がこれからも続いていき、しかも広がりをもっていただくことを願っております。今日はよろしくをお願いします。

【来賓・出席者 紹介】

井戸敏三知事、藪本吉秀三木市長、仲田一彦県議会議員（三木市選出）、  
中島英三北播磨県民局長、松谷清生副局長、小西利隆三木市ふれあい部長  
三木自然愛好研究会18名

【活動の目的・団体の沿革を説明】

三愛研 この会を結成する以前、14年程前から絶滅危惧種のギフチョウを復活させようということで活動を行ってまいりました。大規模開発などで絶滅が心配されて、個人的な小さな団体の活動では持ちこたえられないので、市民活動として、市民が財産としてそれを守っていくという形を作らねばと考えまして、当初は会員が20名になったら会を結成しようと考えました。平成9年3月に総会を開きまして、35名からスタートしました。現在は122名、顧問の先生を入れて125名です。主婦や会社員、大学の先生方で構成された和やかな会で活動しております。活動の目標は、まず一点は、自然を愛護して、健全なる自然を守っていくことを中心に考えております。次に、会員の研究と研修です。素人の集団ですから、会のレベルを上げるために研究が必要だと思っています。3つ目は、私どもの研究や研修した知識や技能を社会に役立てていけたらという3つの柱を目標にしまして、運営をしております。

現在の活動のモットーは会の親善、親睦を図って活動は楽しく。楽しくなかったら続かないだろうというのが筋になって現在運営しています。

2006年にこの活動を認めていただいて、知事さんから活動の表彰を受けました。その時に知事さんと握手した手の温もりが今でも忘れられません。

【パワーポイントで活動内容説明】

- ・ 合同調査や観察会などの催し
- ・ 市内学校の環境学習支援
- ・ 研究会誌「おもだか」の発行と、研究データの蓄積
- ・ 連絡紙「三愛だより」の発行
- ・ カレンダーの発行
- ・ 親睦会・サロン会を催し、研究情報の交換や会員相互の親睦を図る
- ・ その他社会貢献のための事業

【「親子かわがき教室」についての説明】

**知 事** 「かわがき」というのは何ですか。

三愛研 川で遊ぶ子ども（ガキ）という意味や、川をかき回して魚を獲るという意味です。

【シジミオモダカ復活事業について説明】

三愛研 シジミオモダカ復活事業ですが、シジミオモダカのシジミは志染町のシジミです。

三木市の中で三木市の名前を持っている唯一の植物です。シジミオモダカは僅かしかなく、それも私有地で自生しており、埋め立てられようとしています。シジミオモダカを見ていると「21世紀、私も生きていきたい」と訴えているように見えます。

**知 事** 自生している場所は防災公園の具有地に入っているのですか。

三愛研 園外です。園内に新居を作れば、ずっと続けて生きられる。そうなればいいと思っております。今日からシジミオモダカの復活事業が始まりそうな気がしています。

**知 事** 水辺が必要ですか。

三愛研 必要です。

このあたりに（スクリーンを指しながら）池があるのですが、その周辺にシジミオモダカが自生しております。シジミオモダカは北向きの比較的水温の低い所に生えるのではないかと思います。この辺りにはヒメコウホネという植物も自生しております。

防災公園の中で同様の地域といいますと、西谷池という小さい池の上流のあたりなら同じ条件ではないかと思います。以前からこの池にもヒメコウホネが自生しております。

防災公園の整備工事を行う時、このヒメコウホネを保存しながら工事を行っていただいた経緯がございます。従ってこの辺りにシジミオモダカを移植させれば適地ではないかと思います。

**知 事** 防災公園にシジミオモダカを移植することは問題ないと思います。うまく育つかどうか心配ですが、おっしゃっていただいたら保存地区をつくって、研究会のみなさんで管理、保存していただいたらいいと思います。どこと相談をすればいいのか後ほどご連絡させていただきます。

三愛研 昭和14年に採取をして、頌栄短期大学と人と自然の博物館に残っています。

**知 事** 根は深いのですか。

三愛研 そんなに深くはないです。ここが日本の原産地になっております。

**知 事** 自生地の所有者の方にお断りしないといけませんね。

三愛研 地元の方です。

- 知 事 名前の由来が志染町から来ているのは知っていましたか。(市長に向かって)
- 市 長 知っていました。地元の志染小学校ですから。
- 三愛研 学名はハリマエンシスと言います。
- 知 事 市長さんに仲介に入ってもらいたいです。移植の場所が防災公園の敷地なら問題ないです。
- 局 長 所有者の人は値打ちをわかっておられるのでしょうか。
- 三愛研 採取を女学生の時にされた人が神戸の方におられたので、お家を訪ねて取材しまして、採取地を見つけました。やっと見つけました。
- 知 事 株分けをしてはどうですか。
- 三愛研 2株ほどもらって育てています。種がとればよいのですが。
- 知 事 絶滅種に近いものを育てるのは大変ですね。

#### 【増田ふるさと公園についての説明】

- 三愛研 この写真はふるさと公園です。元々は普通の田圃です。ただそこに貴重な草花があることを知っていましたので、そこが耕地整理されるので全く何も残らない。外来の草くらいしか生えてこない。それで私たちは地元の増田地区、三木市など関係機関に対しまして、残してくださいと積極的にお願いに行きました。その結果、平成12年6月の市議会で通りまして、平成13年には三木市と委託契約を交わし、私たちが管理しています。そのふるさと公園で三木市長や仲田県議にも参加していただきフェスティバルを開催しました。魚すくい、工作教室、さつまいも掘りや野菜の販売などをしております。場所はグリーンピア三木の近くです。
- 知 事 大きさはどれくらいですか。
- 三愛研 0.7ヘクタールです。
- 知 事 7,000平方メートルですか。結構大きいですね。
- 三愛研 啓発活動ですが、継続は力なりということで毎年作っております。「おもだか」という冊子も作成しております。他にも植物のビデオなども作成しております。
- ふるさと公園に新しくビオトープを作っております。水が淀んでしまうと良くない、ということで、水が動くようにソーラーで水を動かしております。
- 知 事 ふるさと公園は三木市有地ですか。
- 三愛研 そうです。
- 今年初めてビオトープを作っていたんですが、3日目くらいには蛙が大量に産卵しまして、このビオトープの中には3種類の絶滅危惧種が発生してきました。自然を大事にするということはどういうことかなと思います。
- 知 事 活動範囲が広いから、代表は総合ディレクターかもしれないけど、それぞれ専門家がいらっしゃるのですか。
- 三愛研 たくさんの知恵を持った人がおりまして、一人ではなかなかできません。食の専門家とか、いろいろな人の助けを借りまして、本の編集もしております。昭和45年に三木市史が編纂されまして、それから40年経って新しい三木の自然を見つめ直そうということで「ネイチャーブック・三木の自然」を作りました。皆さんに三木の良さをわかってもらいたいという思いです。

### 【ギフチョウについて説明】

三愛研 私は「ギフチョウの復活」をさせていただいております。

知事 ギフチョウ自身も結構まだいるんですね

三愛研 月刊の虫の雑誌に載ったほどたくさんいたのですが、開発が進んでほとんどいなくなりました。最近、コレクターの値段表が送られてきてまして、西脇市のギフチョウのメスが800円、三田市のメスが3,000円、三木市が1万円、なぜかという、それだけ数がいなくなって、蝶の特徴が変わってきているんです。

知事 同じギフチョウがですか。

三愛研 生育地によって微妙に模様が違うようです。

先日、山形大学の方に遺伝子の調査をしていただいたんですが、美嚙川を挟んで北側と南側の蝶で遺伝子が違うようです。どちらも大事ですけど、とりあえず残すことが大事だということで、どう保存の仕方をするかを話し合っております。

知事 でも1万円なんて値が付くと、悪い人もでてくるんじゃないですか。

三愛研 無茶苦茶なことをして<sup>ひんしゅく</sup>輿<sup>ひんしゅく</sup>を<sup>ひんしゅく</sup>買っている人もいます。我々はそれを防ぐのに説得したりするのですが、権限が何もないので、なかなか守ってくれないのです。

ギフチョウを増やす為にヒメカンアオイというギフチョウの食草を育てています。

知事 ギフチョウはヒメカンアオイ以外は食べないのですか。

三愛研 蝶々の幼虫の場合は、大体食べる草が決まっているのです。

知事 そうするとヒメカンアオイをどうやって増殖させるかですが、県立フラワーセンターはどうですか。

三愛研 フラワーセンターのヒメカンアオイを持って来るとするのは遺伝子の攪乱になるので、ダメなのです。

知事 持って行って増やすのはどうですか。

三愛研 環境が変わると野生の植物は不思議とダメになるんです。

知事 そうするとみなさんに頑張ってもらうしかないですね。

三愛研 栽培も難しい植物なのですが、最近になってやっとうすればいいのかと分かってきました。

### 【その他意見交換】

三愛研 知事さんにお尋ねしたいと思っていたことがあるのですが、今年から小学3年生の環境学習で市の教育委員会も力を入れて、私たちも支援させていただいているのですが、知事さんはどういうお考えで推進されようとしているのですか。

知事 昨年の秋ですが、子ども達の自殺者が随分でした。原因はいろいろあると思うのですが、命の大切さを頭で理解するだけではなくて、生き物をどのように感じてもらおうかなと思ひまして、命の不思議に接するというのが一番ではないかなと思ひ、例えば、一つの「種」が収穫期になるとカボチャになる、そういう不思議を学んでもらおうと、そういう体験や経験が自然と命の大切さを教えてくれて私たちを助けてくれるのではないかなというのが一つ。もう一つは、人間も一つの「種」ですので、我々が一人一人生きていくというのは、「種」がずっと命をバトンタッチし続けているから、今の我々につながってくるのです。36億年前のバクテリアからタンパク質となり、ずっと。自分の命なのだけれど、自分だけの命ではないというのを考えてもらいたいなと。それは是非、自然とのふれあいの中で、しかも小さい段階で学んでもらいたい。生き物の命が自然の中で生まれているのだというよりは、人と自然との付き合い方みたいなものを学んでほ

しい。小さい時だと「命って不思議だね」という感動が湧くのではないかと、そういう意味では本当はもっと小さい1年生の方がいいかなと教育委員会と協議したんですが、1年生は野外活動でコントロールしきれないということで、3年生からやっております。私自身は兵庫県の教育の特色は何かというと体験教育だと思っているのですが、体験教育の1つとして低学年のコースを作りました。

三愛研 私どもも支援する場合に、最初に支援の要請を受けて、バスを借りていろいろ行ったんですが、1校で少なくともバス1台借りて、1回数十万、子どもの予算も1人何千円という話で、それも兵庫県全校でやると膨大な予算になっているはずですし、それだけ力入れていただいているのに、我々がどういう支援をしたらよいのか、その方向性を裏付けられるのかなと思ひまして、どういう姿勢で支援していけばよいのかなと知事さんにお伺いしたかったのです。

知 事 四季の花を見つけるような体験をするのも一つですし、私が典型的に考えたのは、種を蒔いて管理をして、収穫をして自分たちの作った物を食べるというのが、子ども達にとって非常に新鮮な体験なんじゃないかなと、典型的なものとして考えていました。

環境学習に関してはもっと早くから取り入れたかったんですが、子ども達のお世話をするグループの人材に厚みがある程度ないと、全生徒なかなか見られないんで、ようやく参加いただける応援していただける体制が整ってきたかなと思っております。我々の子どもの頃は外で遊んでいけるうちに自然といろいろ学んでいたんですが、今の子どもは経験や体験のチャンスを作っておくべきではないですね。

三愛研 私たちが活動するには会員の中でいろいろ役割を担っていただく方がおありまして、他にも川辺でする時は、命の安全を守るために必ずライフセーバーに神戸から来ていただいたり、医師の方に待機してもらったりなど、みんなボランティアで協力していただいて、本当にありがたいです。

知 事 さっきのお話聞いていますと、ふるさと公園を確保されたのは非常に大きいですよ。自分たちのフィールドが出来た。

三愛研 公園の中に絶滅危惧種が28種類いまして、非常に良い所です。それも三木市が環境事業の為に買い上げたのは始めてだそうで、それを活動の場にさせていただいて誇りに思います。

市 長 代表は私の理科の先生なのです。元々こちらの団体は自分たちの力でやっという団体なのですが、前の市長が素晴らしくて増田に公園を確保されていたので、私も引き継いでいます。団体のみなさんも素晴らしいのですが、増田地域の方々が素晴らしくて、地域の方と団体とが一体となって守っというとされています。三木の134年の歴史を誇った小学校があるのですが、そこが廃校になって高齢者の里としてだけではなくて、高齢者大学として復活したのですが、環境教育のサポートという形で子ども達の声がこだまする、そこへ高齢者の方が来られる、そこへ市民ふれあい交流の場を作ったり、子ども達が体験学習できるような場所を作ろうとしています。現在、ホテルやメダカ、ドジョウの再生を三木市としても考えており、三木自然愛好研究会さんと合同でやっていきたいと思っております。ホテルを再生しようとなりますと、再生されたら他からたくさん人が来られて困る、と言われる所もあり問題もありますけれど、一緒にやっていきたいと思ひます。

知 事 人が来てもホテルなんか飛び回っている環境ができれば望ましいですよ。

三愛研 私たちが草刈りをして、草焼きは増田の人がしてくれるのですよ。ふるさとまつりをする時にも、増田の方が野菜やおでんを売ったりしていただいているのです。私たちと地区とはうまく連携を取り合っやれていますので、一緒に出来ているのは素晴らしいなと感じております。知事、市長お二人が、もし増田の方とお会いする機会があるならば、ちょっと一言をお願いします。

知 事 自然保護団体は結構、地区の人と対立しがちなのですが、メンバーに増田地区の人はおられるのですか。

三愛研 います。

知 事 その方がつなぎ役となってください。

三愛研 区長さんはじめ、みんな素晴らしい方が多いので助かります。

知 事 三木にこんな自然が残っていると思いませんでした。

三愛研 いろんなことをやっていこうとする上で、本当に里山みたいな所があったらいいと思うのですよね。

知 事 防災公園の中でそういう所があったら言ってみてください。

三愛研 防災公園の中ではシジミオモダカに関してはどうやら出来そうな感じを受けました。

知 事 もっと使ってない土地は一杯あるので、ここを上手い具合に里山林に使いたいとおっしゃってください。

三愛研 ありがたいお話です。それを私どもはずっと願っておりました。  
それで、お願いのできたら、吞吐ダム近くにある、以前に三木市が県から借用していたキャンプ場をこれまで我々の活動で使わせていただいていたのですが、今年は県の方と話が上手くいかなくて使えなかったのです。

知 事 どうしてだめだったのですか。

三愛研 我々の計画がまずかったのもありますが、計画で躓いたのは使用料の問題があります。我々は会費だけで運用していますので対応できません。

知 事 それはどこの土地ですか。

局 長 兵庫県土地開発公社です。

知 事 大丈夫です。引き受けます。

三愛研 このキャンプ場は三木市で一番水がきれいなのです。水と山と川がつながっている所は三木でここだけなのです。

知 事 年中使うというわけではないでしょう。

三愛研 出来れば地域興しに市民の環境学習を1年間続けたいと思っているのですが、県の方も活用の委員会をもって考え中みたいですね。

知 事 考え中でも考えている間は使えばいいじゃないですか。早速に相談します。宿題が2つありますね。

三愛研 先程のカワガキ教室をやっているのがこの川なのです。

知 事 三木市に安く買ってもらっているのはどうですか。とりあえず来年の春に間に合うように何とかします。最後に大事な話を聞きました。

三愛研 本日はありがとうございました。

知 事 ありがとうございました。今後とも素晴らしい活動をしてください。継続は力なりですから続けていただいて、素晴らしい仲間を増やしていただきたいと思います。